

いわて生活協同組合と生母生産森林組合による 「イロハモミジの森づくり」の協定調印式の開催について

1 はじめに

奥州市前沢区にある生母生産森林組合（大石 喜清組合長。以下「組合」）では、平成19年から地元小学校等と連携し、イロハモミジの森づくり活動を行ってきました。

今春、前沢区の小学校が統合するため、昨年が最後の植樹となりましたが、この活動をいわて生活協同組合（飯塚 明彦理事長。以下「生協」）が継承することとなりました。

2 生母のイロハモミジの植樹

組合では、平成19年から地元の赤生津（あこうづ）、母体（もたい）の2つの小学校の卒業記念として、地元関係者とともに、イロハモミジの植樹を行ってきました。

これまでに植栽した面積は2.2㍍で、植栽本数は212本となっています。植樹後の下刈は、地元関係者のほか県、市、森林組合の職員もボランティアとして参加し、実施しました。



【下刈ボランティアの実施（平成25年7月）】

3 いわて生活協同組合の森づくり活動

生協では、すでに平成22年から葛巻町で森づくり活動を実施しています。

生母地区で取組みは、これに続く2カ所目となります。葛巻町での活動では、平成22年から25年の4年間で、約9,000本のトチノキ、ナラなどの広葉樹苗木を植栽しています。

4 森づくりに関する協定の調印

生協と組合による協定調印式は去る3月29日にコープ水沢アテルイで開催されました。飯塚生協理事長と大石組合長との協定調印に、遠藤県南広域振興局長が立会しました。

活動計画は、期間を平成33年度までの10年間とし、面積1.4㍍にイロハモミジ180本を6年間で植栽するものです。

植栽する苗木は、生協組合員が自宅で育成するほか、コープ店内でも育成することになっています。



【協定調印式（左から大石組合長、飯塚理事長、遠藤局長）】

5 おわりに

県南広域振興局では、企業の森づくり活動が活発化するよう、引き続き支援して参ります。